

令和 3 年 10 月 31 日
(2021 年)

吹田市立博物館
館長 高橋 真希 様

吹田市立博物館協議会
委員長 伊藤 廣之

令和 2 年度（2020 年度）吹田市立博物館事業評価報告書について（報告）

吹田市立博物館の令和元年度事業評価について吹田市立博物館協議会では令和 3 年 8 月 20 日および令和 3 年 10 月 27 日において慎重に審議した。下記のとおり吹田市立博物館が目指す活動目標に沿って、その結果について報告する。

記

- 1 提出する報告書 令和 2 年度（2020 年度）吹田市立博物館事業評価報告書

以上

令和2年度(2020年度)事業評価

(大項目) 1. 地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館									
目 標		吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。また、地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。							
(中項目)①資料の収集・保管・活用				自 己 評価点	【自己評価】	自 己 評価点	【外部評価】	外 部 評価点	
(小項目)	(重点項目) a. データベースの構築	指標・目標	データベース構築の進捗度	B	《資料の収集・保管・活用》 図書館のサーバー利用による資料データベース公開の方針を見直し、当館の現在におけるパソコンのシステム、ホームページを含め、情報発信のあり方を抜本的に改修することとした。そのため、機器の更新、サーバーの設置場所、データベースの外部ソフトの利用などについて協議を行った。 本年度は歴史資料の収集が顕著であった。重点収集資料の万博関連資料は大量の寄贈を受け、早田家資料・南野家文書など地域資料の収集が進展した。 新規収蔵資料を対象に年2回の燻蒸庫燻蒸と、本年度は収蔵庫燻蒸を未実施年度のため、館内の棲息昆虫・微生物等のモニター調査を2回実施、良好な結果を得ている。 《調査研究》 新芦屋古墳及び横穴式木室墳に関する調査は令和3年度春季特別展図録に成果を反映させた。万博関連資料調査は秋季特別展において図録・博物館だより等で成果を公表した。文書資料は整理を進め、調査を継続中である。 次項の学芸研究会における常設展示大規模リニューアルの基本構想策定に向けて、各分野における効果的な展示手法などについて最近の他館の動向などの調査を行った。 本年度の学芸研究会は、常設展示大規模リニューアル構想をテーマとして10月21日から3月25日までに6回実施した。令和8年度～12年度に予定される建物大規模改修工事に合わせて常設展示の大規模リニューアルを行うための展示の基礎構想について論議した。	A	長らく資料データベースの構築作業が手つかずのままになっていたが、この状態から脱却する手がかりを得たことは評価できる。資料データベースの構築に向けて、サーバーをめぐる課題に進捗が見られ、ハード・ソフトの検討が進んだが、データベースの構築・公開にはまだ道半ばの状態に止まっており、速やかな実現が求められる。データベースの構築について、情報発信のあり方を抜本的に改修とある。サーバー利用による資料データベース公開の見直し等検討を行うことは必要であり、今後軌道に乗るものと期待したい。 基本事業については、資料収集および関連する研究が活発に行われ、着実に実施されていることを評価する。歴史資料中心に資料収集が順調に進行中、それら収集資料の環境維持作業も良好と見受けられる。 大項目にある自然遺産について、市内の自然環境は気候の影響や開発により激しく変化し、それに伴い、いま調査し記録し保全しなければ失われていく希少種もある。ヒメボタルの保全だけではなく、また紫金山にとどまらず市内の自然環境の現状調査や保全について、博物館の果たすべき役割があるのではないかと。いろいろ検討して今後の事業や博物館リニューアルに活かしていただきたい。	A	
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) b. 資料の収集	指標・目標	収集方針に基づいた資料収集を行い、適切に整理・登録を行っているか。	A					
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) c. 収蔵環境の維持	指標・目標	新規収集資料燻蒸回数(2回/年) 館内環境調査回数(2回/年)	A					
		実績	新規収集資料燻蒸回数 2回 館内環境調査回数 2回						
(中項目)②調査研究									
(小項目)	(基本事業) a. 地域史に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 5件	AA					
		実績	地域資料調査 16件						
	(基本事業) b. 博物館運営に関する調査研究	指標・目標	調査研究件数 3件	A					
		実績	自己評価欄に記載						
	(基本事業) c. 学芸研究会業)	指標・目標	学芸研究会実施回数 (2回/年)	AA					
		実績	学芸研究会実施回数 6回						

2. 地域文化の情報発信拠点としての博物館									
目標		地域の歴史と文化を紹介する常設展示と幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。また、地域の文化の情報拠点の役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ります。そのため、博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信公開します。							
(中項目)①常設展示				自己評価点	【自己評価】 資産経営室の施設個別計画において、博物館の建物大規模改修工事が令和8年度～12年度に予定されており、それに合わせて常設展示の大規模リニューアルを行うための展示の基礎構想について10月21日から3月25日までに6回の論議をした。 令和2年度(2020年度)は新型コロナウイルス感染症拡大のため、企画展示やイベントが中止となった。春季特別展「川港・吹田のものがたり」、企画展「西村公朝 挿絵原画の世界」、夏季展示、さわる月間は中止とした。実施できたイベントは古文書講座1回と親子体験講座1回のみである。また、講師派遣の回数も例年に比べ大きく減っている。 コロナ禍での対応としては、企画展「吹田の名品展－西尾家・中西家旧蔵品－」、ミニ展示「新型コロナと生きる社会－私たちは何を託されたのか－」を実施した。特にミニ展示はこうしたコロナ禍の状況で博物館の役割を問いながら実践したものである。本年度のテレビ・新聞による取材や報道は60件だったが、そのうち59件がミニ展示「新型コロナと生きる社会」に関するものであった。担当者には取材対応で相当の負担をかけることになったが、この数は人々が渦中にある現在進行形のテーマとそれに向き合う学芸員の姿勢が評価されたためであろう。今後の博物館活動への大きな指針となるものであった。 ホームページのアクセス数は回復し、指標値は超えた。本年度はコロナ禍での情報発信という目的で、「バーチャル・ミュージアム」のページを公開した。秋季特別展に合わせ、来館できなくとも特別展の展示内容にアクセスできるようにした。同時に講演会、歴史講座、シンポジウムの動画をオンライン講座として視聴できるようにした。 一方で、これまでのフェイスブック投稿内容が展覧会やイベントの告知中心であったため、展覧会・イベントの中止により投稿回数が激減した。レファレンス数も減少傾向であり、今後はコロナ禍での情報発信ツールとしてのSNS利用、レファレンス業務のあり方、周知方法を検討する必要がある。	自己評価点	【外部評価】 事業報告書や事業点検・評価チェックシートに、博物館評価・点検体制そのものについての記載がないが、触れておく必要がある。博物館評価・点検体制それ自体も、評価の対象となる。 2020年度は、2019年度の事業を対象とした博物館協議会が開催されず、前年度事業の評価を翌年度に行うという原則が崩れた。コロナ禍という異常な事態のもと、やむを得なかった面もあるが、遠隔会議の形をとってでも開催すべきであったと思う。今回、2021年度に2019年度の事業を評価することになったが、その評価結果は2020年度に行った場合とは異なるはずである。原則を一定にしておかないと、各年の事業評価を比較検討することはできなくなる。 《常設展示》 常設展示の大規模リニューアルにむけて努力されている。今後予定の建物の大規模改修工事を念頭に、館内レベルでの展示の基礎構想の議論が始まり、リニューアル計画が順調に進み出した点が評価できる。 《企画展示》 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示やイベント等の事業の中止・縮小は仕方ないので、評価を減じることにはならない。このような状況で、企画展示において「新型コロナと生きる社会－私たちは何を託されたのか－」展は、時宜に合ったすぐれた企画であり、高く評価できる。コロナ禍に生きる人間社会の姿を、地元で収集した資料にもとづき市民に提示した取り組みであり、博物館が社会の抱える問題を市民と共に考える機会と場をつくりあげた点は高く評価される。なお現代資料の収集と活用の点においても、注目に値する活動であったといえる。また、博物館展示における従来枠組みとは異なり、博物館に対する市民のイメージを動態的なイメージに変える画期の事業でもあった。コロナ禍のような非常事態のもとでこそ、それぞれの館の真の力量が問われるが、全国の博物館の中でも絶えず先進的・精力的な取り組みを行っている吹田市立博物館ならではの企画であった。 さわる展示は、新型コロナウイルス感染症対策のため、資料の撤去など困難状況となった。これからの「さわる展示」のあり方についての検討が求められる。コロナ禍でさわる展示ができなくなったことはやむを得ないことであるが、その分、たとえば「聞く展示」を特化・充実させるなど、それを補う工夫があってもよかったのではないかと。 今後とも、既成価値観にとらわれず、このような革新的な事業に挑戦して、市民に働きかける役割をもつ新博物館を目指して欲しいと期待している。 コロナ禍のもとでの博物館の対応ということでは、ホームページに工夫をし、バーチャル・ミュージアムやオンラインによる講演会・講座・シンポジウムを実施し、イベントの新たなあり方を積極的に模索した点は高く評価できる。コロナ禍のオンライン経験を奇貨として、今後そのメリットを生かしたイベント活動を企画して頂きたい。今後の発展を期待したい。	外部評価点	
(小項目)	(重点項目) a. リニューアル	指標・目標	リニューアル計画の進捗度	AA					
		実績	自己評価欄に記載						
	(重点項目) b. さわる展示	指標・目標	「さわる月間」の開催(1回/年)	B					
		実績	中止						
(中項目)②企画展示									
(小項目)	(重点項目) a. 特別展等の開催	指標・目標	展示目標は達成できているか。	A	A				
			実績						
	(重点項目) b. 西村公朝資料の展示と活用	指標・目標	展覧会は実施の有無	B					
			実績				展覧会は中止		
	(基本事業) c. 企画展示の中期計画立案	指標・目標	展示の中期計画立案の有無	A					
			実績				立案した		
(中項目)③地域学習の支援									
(小項目)	(重点項目) a. 多様なイベントの実施	指標・目標	イベント回数 138回/年 参加者数 7,657人/年	B					
			実績				イベント回数 2回 参加者数 91人		
	(基本事業) b. 出前講座・依頼講座	指標・目標	出前講座回数 30回/年 参加者数 1,049人/年	B					
			実績				出前講座 14回・参加者数 409人		
	(基本事業) c. レファレンス業務	指標・目標	レファレンス件数 46件	B					
			実績				レファレンス件数 21件		
(中項目)④情報発信									
(小項目)	(基本事業) a. ホームページ	指標・目標	アクセス数 33,453回/年	AA					
			実績				アクセス数 38,591回		
	(基本事業) b. ソーシャルメディアの活用	指標・目標	フェイスブック投稿回数 50回/年	B					
			実績				フェイスブック投稿回数 5回		
	(基本事業) c. 広報の充実	指標・目標	取材・報道件数 16件/年	A					
			実績				取材・報道件数 60件		

3. 市民と協働し、ともに活動する博物館											
目 標		市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのための博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。									
(中項目) ①市民参画と協働				自 己 評 価 点	【自己評価】 新型コロナウイルス対策のため市民との協働事業は実施できなかった。 ボランティア活動は新型コロナウイルス対策のため大きく制限せざるをえなかった。特別企画のボランティア活動は展示準備の一部にとどまった。例年の学校団体見学がほぼ中止になり、児童への体験補助などの活動はできなかった。また、夏季展示実行委員会も、令和元年1月12日に第1回の会議を行ったが、4月に夏季展示の中止を決定したため、以後の活動を取りやめた。夏季展示が中止になったことにより市民講師も実施できなかった。 アンケートは展覧会ごとに来館者を対象に3回実施し、集計を行った(企画展とミニ展示は同時開催のため同一アンケート)。3回のアンケート全体として回答率は14.1%で、率としては昨年度の8.0%(8回実施)を上回った。 平成21年度に庁内検討委員会において策定された基本構想に基づき、令和6年度設計、7年度建設の予定で実施計画として要求。結果は「査定せず」。紫金山公園ビジターセンターの建設は財政問題があり課題は多いが、引き続き協議、検討を続けていく。	自 己 評 価 点	【外部評価】	外 部 評 価 点			
(小項目)	(重点項目) a. ボランティア活動の支援	指標・目標	活動人数 401人／年 活動日数 63日／年	B		B	ボランティア活動や市民実行委員会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中心となる事業の多くが中止となり、活動日数・人数ともに指標を下回る結果となったが、コロナ対策のため、市民参画・協働の事業ができなかったことはやむを得ないことである。 しかし、そのような時であるからこそ、これまでのボランティア活動・市民実行委員会を総括し、新たな方向性を出すべきであったと思われる。オンラインによるボランティアや市民実行委員の勉強会や意見交換会など、市民をつなぎとめておくための催し等の検討もされたい。コロナ禍で出来なかった活動を次に期待する。	B			
		実績	活動人数 延べ228人 活動日数 延べ30日								
	(重点項目) b. 市民実行委員会による展示事業	指標・目標	実行委員参加人数 22人 実行委員活動日数 49日	B							
		実績	実行委員参加人数 13人 実行委員活動日数 9日								
	(基本事業) c. アンケートの実施	指標・目標	アンケート実施件数 6件	A							
		実績	アンケート実施件数 3件								
	(基本事業) d. 博物館事業への市民の参画	指標・目標	市民講師件数 22人 市民の原稿執筆件数 10件	B							
		実績	市民講師件数 1人 市民の原稿執筆件数 0件								
	(基本事業) e. 市民団体との協働事業	指標・目標	連携事業件数 3件	B							
		実績	連携事業件数 1件								
(中項目) ②紫金山公園ビジターセンターの建設準備											
(小項目)	(基本事業) a. 紫金山公園ビジターセンターの建設	指標・目標	ビジターセンター建設計画の進捗度	B							
		実績	自己評価欄に記載								

4. 社会とともに歩む博物館									
目 標	学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。また、博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。								
(中項目) ①連携				自 己 評 価 点	【自己評価】 本年度の北大阪ミュージアム・ネットワーク事業は、シンポジウムの開催のみにとどまった。前年まで開催していたメッセは文化庁補助金が獲得できず、実施できなかった。ネットワークとしての財源がないため、その運営方法や資金調達の工夫がより求められる。西国街道連携事業は主催者である歴史街道推進協議会の判断により中止となった。 特別企画「むかしのくらしと学校」は新学習指導要領に合わせ、小学校副読本も改訂されたため、その内容に沿うように展示構成も変えた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学校団体見学はほとんどの学校が中止となった。教職員研修はオンラインで実施した。 昨年度まで刊行してきた『吹田の歴史にふれてみよう』は地域の全域を網羅したため、既刊を統合し、デジタル版として来年度に再編集することとした。中学校現場での利用を促すため中学校社会科教諭と、その活用方法について協議した。 博物館実習は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年の館園実習は中止した。それに伴い、博物館実習展も中止となった。大学より要請により、希望する実習生に代替の実習を行った。インターンシップは高校生1人。JICAは受入なしだった。	自 己 評 価 点	【外部評価】 北大阪ミュージアム・ネットワーク事業は、文化庁補助金が獲得できなかったため、例年のメッセの開催ができなくなり、シンポジウムのみの実施となった。ネットワーク館との連携のもと、事業費の新たな獲得、ネットワーク事業のあり方の検討が求められる。 コロナ禍により、特別企画「むかしのくらしと学校」が会期中途中で休止となり、学校団体見学もほとんど中止となり、目標に達しないのは仕方がない。が、オンラインによる教職員研修も行われており、非常事態のもとで翌年度につなげる取り組みが行われていたこと、教材『吹田の歴史にふれてみよう』のデジタル版化の準備などに取り組んだことは評価できる。コロナ禍での博物館の在り方、展示の方法について、試行錯誤があったと思うが、今後のためにも記録し、検討を加えてみてはどうか。	外 部 評 価 点	
(小項目)	(重点項目) a. 北大阪ミュージアム・ネットワーク	指標・目標	事業実施件数 1回/年	A					
		実績	事業実施件数 1回						
	(基本事業) b. 他機関との連携事業	指標・目標	事業実施件数 1回/年	B					
		実績	事業実施件数 0回						
(中項目) ②学校教育との連携									
(小項目)	(重点項目) a. 学校教育による利用の促進	指標・目標	学校団体見学校数 28校 出前授業件数 7校 教員への研修 1回/年	B					
		実績	学校団体見学校数 4校 出前授業件数 6校 教員への研修 1回						
	(基本事業) b. 学校教育への支援	指標・目標	設定していない	A					
		実績							
	(中項目) ③人材育成								
	(小項目)	(基本事業) a. 実習・研修等の受け入れ	指標・目標	実習受入13校・人数22人 インターンシップ人数 1人 JICA研修受入人数 5人		B			
実績			実習受入 4校・人数 4人 インターンシップ人数 1人 JICA研修受入人数 0人						